

学校の共通目標

授業作り	重点	通常の学級にいる全員の生徒が楽しく学びあい、「わかる・できる」ことを目指して授業づくりをすすめる。	中間評価	・すべての教科でＩＣＴを活用した授業が行われている。授業の場面に応じて、生徒自身が活用する場面も増えている。	最終評価	・すべての教科でＩＣＴ機器を活用した授業を行った。今後生徒がタブレット端末を活用して学習する場面を増やしていくことが課題である。
環境作り		生徒が落ち着いて過ごし、学習活動に集中できる環境作りをすすめる。		・「本時の目標」の提示など、生徒が見通しをもって授業に取り組むことができる環境づくりに取り組んでいる。		・目標の提示、白板周囲の掲示物の工夫など、全校で共通して生徒が見通しをもって学習活動に集中できる環境作りに取り組んだ。

教科の取組内容

教科	学習状況の分析（４月）	課 題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10 月）	最終評価（２月）
国語	【学】【第1 学年】 ・提出された作文や授業中のノートを見ると、漢字の書字や自分の考えを文章で表現することへの課題が見られる。 【調】【第2・3 学年】 ・2 学年は、昨年の区学力調査より「知識・理解」において苦手意識が感じられる。 ・3 学年は、学力調査の結果から「文章の展開に即して内容を捉えること」「指定された文字数で書くこと」に課題が見られている。	【第1 学年】 漢字や慣用句などの知識の定着を図るとともに、感想文や日記文など身近な事柄を取り上げて文章を書く習慣をつけさせる。 【第2・3 学年】 ・2 学年は、漢字の書き読みについて、知識の定着をはかる。 ・3 学年は、文章問題に慣れ、内容理解につなげるようにする。また、単元に応じて文章を書く機会を増やす。	【第1 学年】 漢字テストを実施する。単元によっては初読の感想文を書いたり、手紙を書いたり、自分の考えや意見を文章にする。 【第2・3 学年】 ・2 学年は、漢字の小テストを定期的に行う。 ・単元に応じて、初発の感想文を書いたり、自分の考えや意見を文章にしたりする。 ・年間の作文コンクールや俳句コンクールなどに出品し、表現力に磨きをかける。また、そのために必要な表現技法の指導を行う。	【第1 学年】 ・漢字の小テストを週に一回実施し、家庭での漢字学習の習慣をつけてきている。 ・タブレットを活用して情報を集め、レポートとしてまとめるという学習を行った。 ・自分の考えや意見を書く活動は定期的に行っているが、その成果物を他者と評価し合う経験は乏しいため、発表の機会を増やして意見交換の経験を積ませていく。また、タブレットを活用したクラス全体での意見交流も今後行っていく。 【第2 学年】 ・漢字の小テストを週に1 度は継続的に行之い、繰り返し粘り強く学習する姿勢を身につけている。 ・自分の経験や意見書く機会が少なくなっているので、今後計画的に指導を行っていく。 ・ICT を利用した作品鑑賞、作品提出を行う予定である。 【第3 学年】 ・全般的に「書くこと」が、少しポイントが下がっているので、論文、鑑賞文などに力を入れて指導している。 ・古典では、作品本文や資料をプロジェクター等を利用して生徒に見せながら学習を進めている。 ※全学年を通して、作文コンクールや俳句・川柳コンクールに多数出品し、表現力の向上を目指している。	【第1 学年】新宿区区学力定着度調査では、全国・区平均ともにわずかではあるが上回ることができた。「書くこと」について報告文を書くことが区平均を下回っていたり、「情報の扱い方に関する事項」の正答率が区・全国平均ともに下回ったりと情報を読み取り、まとめることに全体的な苦手傾向が見られた。次年度への指導課題とする。 【第2 学年】 新宿区区学力定着度調査では、全体的には全国平均と区平均を上回ることができた。「読むこと」が全国より約1 0 ポイント高いが逆に「書くこと」は全国より約1 0 ポイント低く、得意であることと苦手なことが顕著に結果に表れた。2 学年の3 月より2 0 0 字作文や意見文を書くことを集中的に行い、3 年生では「書くこと」への苦手意識が緩和されるように指導を進める。 【第3 学年】 新宿区区学力定着度調査ではほぼ全国平均と並ぶことができた。「書くこと」については、区平均を下回っているが現在「書くこと」について力をつけてきた生徒が増えてきた。
社会	【学】 （1 学年）基礎学力はあると推測できる。 （2 学年）落ち着いた学習態度で学力も伸びてきている。 （3 学年）予習による知識理解は進んでいるが、それに関連付け、思考を深めることは苦手である。 【調】 （2 学年・3 学年） 昨年度は両学年も全体としては、目標値の達成はできており、プラン積み上げの成果が見られた。しかし、資料の分析などに依然課題があり、理解の浅さが見受けられた。	・一部の生徒に知識定着と家庭学習の面で課題がある。 ・文章での表現や記述が苦手な生徒が多い。 ・自ら積極的に発言する生徒が一部に偏る。 ・提出物の完成度が低い生徒が増えている。	・毎時間ごとの目標を明確にし、生徒に各時間の学習項目を意識させる。 ・予習を兼ねたプリント学習と、振り返りの確認テストで知識の定着を図っていく。 ・ノートの作成を工夫させ、自分なりのまとめ方、表現の仕方を考えさせるようにする。 ・折にふれペア学習や、4 人の学習グループでの学習の機会をつくり、発言力の育成を図る。 ・対話的で協働的な学習形態で、生徒の英知を結集できるような学習課題の設定を工夫する。	【第1 学年】 ・目的をもち授業に臨み、小テストだけでなく中間考査の再テストも実施し学力の定着を図っている。 【第2 学年】 ・予習時間の確保とともに、確認テストを継続している。 ・授業に対する集中力を高めるため、ドリル演習等、ＩＣＴを活用している。 【第3 学年】 ・個人の思考活動、ペア学習、班活動の実践を行っている。 ・他者の意見や活動状況をＩＣＴ機器等によって共有。ホワイトボード発表をタブレットに切り替え検討中。 ・社会問題に関する記述式プリントに取り組ませている。	【第1 学年】 2 学期の中間考査の再テスト等を行う中で、再テストに向けて課題の残った教科の復讐を丁寧に行うことによって、成績の向上がみられる生徒が増えた。 【第2 学年】 予習から、教科書の内容をしっかりと理解させたことが効果的であったと感じる。主体的かつ探究的な取り組みが今後の課題である。 【第3 学年】 安定した基礎学力を身に付けることができた。現代史や社会現象に興味を持つ生徒が多くなり、鋭い意見も見られるようになった。記述も表現力が豊かになった。タブレット端末の使用も復習を中心に行い、効果が見られた。リモート授業も肯定的な意見が多かった。

数 学	学 （1 学年）正の数・負の数の知識・理解は定着している生徒が多いが、分数や小数を含む計算や、四則の混じった計算に課題がある。 （2 学年）授業内における計算練習や問題演習では、日々の学習の積み重ねによって、細かなミスが減ってきている一方で、発展問題等の既習の知識を活用する問題には課題がある。 （3 学年）問題を解いて解答を求めることを重視していて、一つ一つの用語や性質の理解に課題がある。 調 （2 学年・ 3 学年） 旧 1 学年・2 学年ともに全ての領域・観点において目標値は達成できている。しかし、細かく分析していくと両学年共通で「活用の問題」や「関数の単元」において今後さらに重点的に指導を行う必要があるのではないかという結果であった。	・学習内容がその時間だけで完結してしまい、計算手順や法則のみを覚えようとするので、時間が経つと忘れてしまい、先の内容や領域と結び付けて考えられない生徒がいることから、基礎学力の定着や、系統的な指導に課題があると考えられる。 ・ 1 つの解法で解答が分かるとそこで思考を止めてしまい、その他の解き方など様々な考え方を模索しようとし ない。また、「活用問題」などの応用問題に対して苦手意識をもっている生徒も多く、解く前に諦めてしまう といった課題もある。	・知識・技能の定着として図形分野・関数分野といった他の領域も含んでいる計算問題を、タブレット PC 等の ICT 機器を活用しながら毎回の授業開始 5 分間で行う。 ・「本時の目標」「課題」「暗記事項」の項目を活用し、どの生徒にとっても分かりやすい板書計画、授業展開を目指す。 ・「主体的・対話的で深い学び」の三つの視点に立った活動を取り入れる。 ・グループ学習を取り入れて、知識理解を応用させた様々な解き方を考えさせる。	・授業開始時に行うタブレット PC 等の ICT 機器を活用した取り組みは半数の生徒ができています。 ・習熟度クラスや単元の内容によって、計算問題の時間を短縮して授業時間を確保する。 ・文字を使った説明や図形の証明について指導する必要がある。そのためには、課題プリントを使ったり、ペア学習を取り入れたりする。 ・ 1、2 学年は単元別テストを行い、また 3 学年はレポートを提出して、各単元における理解度を引き続き確認する。	（1 学年） 図形領域（主に平面図形）に関して、高い正答率を出すことができた。しかし、文字式や 1 次方程式の内容の定着が不十分であると考えられるので、次年度に向けて計算能力の向上を図り、式の計算や連立方程式につなげていく。 （2 学年） 達成率が区全体と比べて 4% 低くなっている。特に式の計算における「分数を含む多項式の計算」が著しく低い結果となっている。一方、証明の分野に関しては比較的高い正答率であった。次年度は基礎的な計算の復習を含めた授業展開を行った上で、計算能力の向上を図っていく。 （3 学年） 習熟度に合わせた内容を中心に授業を進めることで、生徒の実態に応じた学習環境の提供はできた。しかし、話し合い活動等、お互いの知識や思考を共有する機会が少なく、数学への関心・意欲へつなげることに課題がある。
理 科	調 ・ 2、3 年生は、全国および区の平均正答率を下回っているが昨年よりは向上しており、改善の成果が見られる。 ・特に思考・表現の領域では顕著な改善が見られ、3 年生は全国平均を上回っている。日頃から実験・観察を重視してきた成果であると考えられる。 学 ・実験観察には意欲的に取り組む生徒が多いが、自ら考察しようとせず、すぐに正解を知ろうという傾向がある。 ・用語などを丸暗記する傾向があり、用語の名前は知っていても、それがなにを意味するのか説明できないことが多い。 ・読解力が不足している生徒が多く、問題文の理解や実験のデータやグラフの読み取りを苦手としている。	・実験結果に対して安易に正解を求める生徒が多いので、自ら考察し探求することの大切さを教える必要がある。 ・用語等はその意味を含めて理解させるようにする必要がある。また、習得した知識を他人に説明する力を養うことも必要である。 ・得られた知識を反復練習で長期的に定着させる必要もある。 ・注意深く観察することで、実験結果が何を示唆しているのかを理解し、説明する力を養うことも必要である。	・実験内容を工夫し、生徒が意欲的に学習に取り組めるようにする。また適切な考察ができるよう教材を工夫し、授業の内容がわかった、できたという成功体験をふやす。 ・基礎・基本的な知識、技能を確実に定着させる。用語は名前だけではなくその意味を理解させ、他人にも説明できるようにする。 ・ノート指導を定期的に行い、問題演習や小テストをこまめに行うことで知識の定着をはかる。 ・観察や実験の結果から筋道を立てて考察し、自分の言葉で表現する経験を増やすためにワークシートを工夫し、文章表現で記述させる場面を増やす。	・実験・観察は十分な回数を行っている。教材を工夫することで生徒が考察を考えやすいような授業を行うことができています。今後、タブレットパソコンを用いて実験結果を記録させると等にも取り組んでいく予定である。 ・基礎・基本は丁寧に指導している。また、用語や法則の意味を常に考えさせる授業を行っている。 ・ノートは定期的に点検してこまめな指導を行っている。問題演習も行っているが、十分な時間が取れず、反復練習が不十分な点は課題である。 ・実験の考察を必ず書かせたり、ICT 機器を用いて発表させたり、また定期テストで文章の記述問題を多くすることで、自分の考えを文章で表現する場面を多く用意できている	（1 学年） 新宿区区学力定着度調査は区の平均正答率下回っているものの、エネルギーや粒子の分野では区の平均と遜色なく、気体の性質等一部の問題では区の平均を上回っている。課題は生物分野だが、これは学力の定着が不十分で学習してから時間が経つと忘れてしまうことが原因と考えられる。来年度はオンライン学習ツール等を活用して復習の機会を増やしていきたい。 （2 学年） 新宿区区学力定着度調査は区の平均正答率を下回っているものの、昨年の－6. 6 ポイントから、－3. 3 ポイントへと向上した。 特に記述問題は 2 問とも区の平均を上回っており、実験の考察を重視した指導の成果は表れている。課題はエネルギー分野だが、これは学力の定着が不十分で学習してから時間が経つと忘れてしまうことが原因と考えられる。来年度はオンライン学習ツールを活用して復習の機会を増やしていきたい。 （3 学年） 年間を通して実験・観察を重視し、問題解決能力を向上することができた。また、プリント等を活用することで学力の定着も行えている。進学に向け、知識だけでなく、思考力や表現力を身に付けさせることができたと考えている。

英語	学（1 学年）小学校での英語が教科化されたこともあり、アルファベットや簡単な英単語を知っている生徒が多い。その中で、アルファベットを正しく書くようにしたり、英単語を正しい発音で読もうとするなど全体的に意欲的な姿勢をもっている。 調（2 学年）ほとんどの項目で全国を上回るも、区内の平均には及ばない。「語法・話法の知識理解」の力が少し弱い。 （3 学年）ほとんどの項目で全国を上回るも、「単語の並べかえによる英作文」と「3 文以上の英作文」で、全国正答率を 2・3 ポイント下回っており、「書くこと」に課題が見られる。 学（2 学年）課題の提出率が高く、授業や家庭での学習を大切にしている生徒が多い。全体的に音読は好きである。 学（3 学年）単語や基本文の小テストに意欲的に取り組む生徒が多い。一方で、書くことや話すことなど表現することにおいて課題が見られる。	（1 学年）集中力が持続する生徒と、そうではない生徒との差が激しく、今後学習にも影響が出ると考えられる。 （2 学年）並べ替え問題や、英作文の問題などに課題がある。問題の難易度が少し上がると、とたんにスペルを間違えることもある。 （3 学年）正しい英語の文を書く力や話す力について、英語が得意な生徒も含めて伸ばしていく必要がある。	（1 学年）意欲的に学習的に取り組ませるために、長時間同じことに取り組ませるのではなく、短時間で活動を区切り、50 分の中で様々な活動に参加できるよう授業設計を行っていく。また、会話活動など一つの活動を継続することで定着を図り、生徒に自信をもたせていく。 （2 学年）「問題を解く力をつけること」に焦点を当て、引き続き、単語を書かせる活動や英文を書かせる活動を行う。短い英文からスモールステップで取り組ませる。 （3 学年）「書くこと」では、毎授業の冒頭で単語や教科書本文の書き取り小テストを行っていく。「話すこと」では、帯活動として QA シートを使った質疑応答を繰り返し練習していく。	（1 学年）授業の中で様々な活動を取り入れることで生徒の集中力を持続させるようにしている。会話やスピーチなどの発表活動では前回の発表活動と比較をさせたことで、自信につながったと答える生徒も多くいた。書くことに苦手意識をもっている生徒が多くいるため、次に書くことへの支援を始めていきたいと思う。今後は発表活動の際にタブレットを活用した情報収集をさせるなど、生徒の理解がさらに深まるよう授業改善をしていこうと考えている。 （2 学年）授業用ノートと家庭学習用ノートを使い分け、単語の練習を継続して取り組ませている。引き続き、特に「書く力」を身に付けさせる。生徒は声に出して単語や英文を読むことは好きである。問題を解くことを通して、文法や読解力を付けさせていく。また、生徒一人に一台のタブレットを使わせ、海外の観光地を調べ、発表したり、掲示したりする活動を行った。その結果、海外についてより詳しく興味・関心を掘り下げることができ、国際理解が深まった。 （3 学年）重要連語や単語の小テストを定期的に行い、知識の定着に努めている。会話テストと活動報告のスピーチでは、多くの生徒が前向きに練習に取り組み、本番で工夫して発表したり積極的に質問したりする姿勢が見られた。	（1 学年）新宿区学力定着度調査では、すべての領域（聞くこと、読むこと、書くこと）において目標値ならびに全国平均を上回ることができた。課題としては、リスニングの聞き取り、代名詞、長文読解（要点の把握）が挙げられる。したがって、今後は授業内における英語を聞く機会の充実（教員の英語を使用した導入）やワークシートやタブレットを活用してドリル問題を解くことを習慣化し、基礎力の向上を目指す必要がある。また、長文においては説明していない状態で教科書の内容理解に挑戦させるなど繰り返し練習させていく。 （2 学年）授業や家庭での学習で、単語や英文を繰り返し書いて覚える活動を徹底して行い、基礎的な語彙力を身に付けさせることができた。書くことや記述があまり得意でない生徒がいるため、今後も授業でのより充実した活動が求められる。今年度はタブレットを使った調べ学習と掲示物作りにおいて、興味を持った国について自由に英文を書く活動を行った。今後も基礎知識を理解した上で A L T を活用し、自分の考えや意見を書いてまとめる場面を授業で設定していく。 （3 学年）年間を通して単語の小テスト、長期休業明けの重要熟語のテストを実施することで、語彙力向上の練習をある程度習慣化できた。定期考査では、毎回出題している賛否を述べる英作文で回答率が向上しており、意見と理由を述べる際の表現形式の知識や、自分の考えを伝えようとする意欲を少しずつ高めることができていると感じる。一方、英語への苦手意識が強く、前向きに課題に取り組めない生徒も一定数おり、いかに生徒たちにモチベーションをもたせるかは今後も課題である。高校進学後は、中学校で身につけた基礎知識と表現意欲を土台に、英語の 4 技能のさらなる向上が期待される。
	調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況	学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況	※分量は 2 ページ以上となってもよい。		